研究課題評価調書　　（様式７）

令和６年度　■目的設定　□中間評価　□事後評価

機 関 名	総合食品研究センター		課題コード	R061201		事業年度	R6 年度～R7 年度			
課 題 名	秋田県産清酒の販路拡大に向けた海外市場向け清酒に関する調査									
機関長名	柴田　靖		担当(班)名	酒類グループ						
連 絡 先	018-888-2000		担当者名	佐藤　友紀						
戦　　略	03　観光・交流戦略									
目指す姿	02　「美酒・美食のあきた」の創造									
施策の方向性	01　消費者ニーズを捉えたオリジナル商品の開発と秋田の「食」のブランド化									
種　　別	研究	○	開発	○	試験		調査	○	その他	
	県単	○	国補		共同		受託		その他	

評 価 対 象 課 題 の 内 容

１　課題設定の背景（問題の所在、市場・ニーズの状況等）

日本国内では人口減少が深刻であり、国内の清酒マーケットは加速度的に縮小する恐れがある。一方、清酒の輸出は好調であり、国税庁の調べによると輸出額は年々増加している。具体的には、2014 年に比べて 2022 年は清酒の輸出金額は約 4 倍に増加した。したがって、今後は海外市場に秋田県産清酒を売り込むための競争力強化が重要になると考えられる。秋田県内の清酒製造場のほとんどは中小企業であり、独自に海外市場の調査や研究を十分に行うことは困難である。

過去にも海外市場に関する清酒の研究課題が実施されているが、課題終了からおよそ 10 年が経過しており、改めて、清酒の海外市場開拓に向けた最新の調査や研究の推進が必要である。

２　研究の目的・概要

本研究は、海外市場向け清酒に関する調査を目的とする。

はじめに、実際に輸出されている秋田県産清酒と、海外市場をターゲットとしたコンテスト（IWC、Kura Master、全米日本酒歓評会、ミラノ酒チャレンジなど）で上位入賞している清酒を、サンプリングする。これらの清酒を機器分析及び官能評価に供し、海外市場で求められる清酒の品質を検討する。

また、清酒の海外流通行程を調査し、調査結果と同等の温度負荷をかけて、現地で飲用される状態を再現した清酒を調製する。当該清酒について官能評価を行い、海外流通における課題を洗い出す。

本研究で明らかにした課題のうち、微生物開発で対応可能なものがあれば、開発に向けた準備や育種を進める。

３　最終到達目標

[研究の最終到達目標]

・実際に輸出されている秋田県産清酒の品質を、機器分析と官能評価の両面で明らかにする。
・海外市場をターゲットとしたコンテストで上位入賞している清酒の品質と、秋田県産清酒との差異を明らかにする。
・海外市場への進出に必要と思われる微生物について、本研究を基に、情報収集と開発準備を行う。

[研究成果の受益対象（対象者数を含む）及び受益者への貢献度]

・秋田県酒造組合：

秋田県内の清酒製造場の多くが中小企業であるため、独自に海外市場の情報を得ることが困難である。本研究を行い、海外市場向け清酒の課題や情報を清酒製造場にフィードバックすることで、より高品質で、海外市場が求める品質の秋田県産清酒を売り込むことが可能になる。

４　全体計画及び財源

別紙「研究の全体計画及び実績」参照

■目的設定

５　外部有識者等の主な意見及び対応方針	
（１） 必要性	【外部有識者等の主な意見】 ・新秋田元気創造プランや県食品産業振興ビジョン等に掲げる方向性に合致しているほか、清酒は県産食品の輸出に占めるウェイトが最も高く、かつ今後の伸びが期待できる品目であることから、県の政策への貢献度は極めて高い。 ・秋田県の清酒は輸出量が少なく、今後の海外への販路拡大へ向けた戦略が必要である。海外市場の調査として、清酒の輸送における品質変化や販売先の指向の把握をすることは、県内酒造業界としても価値のある研究だと思料される。 ・県内の酒蔵の大部分が輸出に取り組む中で、本研究成果の活用は業界全体の活性化や売上額の増加に直結するものであり、関連産業への波及も含め県関与の必要性・公益性が認められる。
	【対応方針】 調査研究の成果については、県の担当課とも共有し、清酒輸出拡大に向けた戦略に生かしていく。
（２） 有効性	【外部有識者等の主な意見】 ・「輸出用清酒」の定義が曖昧。また、調査対象国や具体的な将来の経済効果の目標が不明確であり、現段階で有効性の評価は難しい。研究開始までに、どのような清酒・国を調査対象にするかや、経済効果の目標を明確にし、より具体的な研究計画を立案して欲しい。 ・競合を知ること、物流時の商品変化を調査することは大切。同時に自身の商品の問題点も調査し、分析することで、ターゲットとする消費者に向けた商品設計ができると思われる。 ・国内市場の縮小から、輸出量の増加や新規輸出先の開拓ができることにより、業界だけでなく、県内経済への寄与度も高いと思料される。
	【対応方針】 調査対象国は、外部連携先である日本酒輸出増プラットフォーム実証推進協議会の対象国（シンガポール、ニュージーランド、北米、イギリス）とする。併せて、清酒の輸出が伸びている台湾も対象とする。
（３） 技術的達成可能性	【外部有識者等の主な意見】 ・目標の達成には、外部連携先との連携・データ共有が不可欠と思料される。 ・最終到達目標に挙げた輸出されている清酒の分析・評価や、コンテストで上位入賞している清酒の品質を明らかにするだけで、海外市場開拓や輸出増に繋がるとする根拠が不明瞭。より具体的な根拠を持って、輸出増に繋がる清酒の特徴を絞り込んで評価した方が良い。 ・対象国での直接調査は極めて重要。特にどのような場面で、どのような属性の人が清酒を飲用しているかを調査することが大切。 ・消費者ニーズ調査のためのサンプリングにおいては、全体像を反映したものなのか、あるいは偏った部分像なのかを常に意識して進めて欲しい。 ・調査分析によって輸出における技術面での課題を明確にすることが可能と思われる。さらに、それらを解決するための新たな目標設定につなげて欲しい。
	【対応方針】 日本酒輸出増プラットフォーム実証推進協議会との連携については、事前の調整を密に行い、確実に進める。具体的に輸出増に繋がる情報を収集するため、分析だけではなく、メーカーや商社への聴き取り等も行う。
（４） その他	【外部有識者等の主な意見】 ・ニーズ調査はマーケティングの基本だが、市場で埋没してしまう確率も高くなる。特に先に参入している競合がいる場合（2 番手、3 番手）では確率は更に高くなる。秋田県の清酒が競合と比較しどのような「強み」があるのかを客観的に調査、分析し、その「強み」を生かした戦略が必要。 ・地域による嗜好の違いもあると思われる。アメリカ向け参入が厳しいと思われるのであれば、ある程度の輸出国を絞り込んで、普通酒でなく種類も絞り込んでの調査が必要と思われる。 ・清酒の輸出は以前から行われてきたものだが、海外での和食の広がりや、情報の入手しやすさなどから、近年は特に海外消費者の嗜好が変化していると思われる。県内でも輸出を行う酒蔵が増えていることからニーズは高いと考える。
	【対応方針】 秋田県全体として日本酒を海外に売り込むための強みを分析・メーカーや商社から聴き取りし、輸出先の嗜好に合わせた輸出の実現に向け、秋田県酒造組合とも連携しながら取り組みを進めていく。

（様式７－１）

研究課題評価調書　別紙（研究の全体計画及び実績）　■目的設定　□中間評価　□事後評価

機 関 名	総合食品研究センター	課題コード	R061201	事業年度	R6 年度～R7 年度
課 題 名	秋田県産清酒の販路拡大に向けた海外市場向け清酒に関する調査				

全体計画及び財源　（全体計画において ═══ 計画、 ━━━ 実績）

実施内容	最終到達目標	R6 年度	R7 年度	年度	年度	年度	各年度到達目標	進捗の到達状況
海外市場向け清酒の分析及び調査	機器分析と官能評価による海外市場での秋田県産清酒の課題と現状の把握	═══	═══				R6 年度：海外市場で求められている清酒の酒質等の調査・分析・官能評価 R7 年度：分析や官能評価の継続と、海外輸出向け清酒の情報の清酒製造場へのフィードバック	

							合計
計画額又は当初予算額(千円)		700	700				1400
財源内訳	一般財源	700	700				1400
	国　　費						
	そ の 他						

課題コード（R061201）　秋田県産清酒の販路拡大に向けた海外市場向け清酒に関する調査　（R6-R7）

背景

〇国内における清酒の消費量は落ち込んでいるが、輸出は増加している

〇秋田県の輸出割合は2.2%と全国平均の6.5%を下回る（国税庁R5調査）

〇伝統的酒造りがユネスコの無形文化遺産に提案され、世界的に注目が集まる

問題点＆対応

〇海外市場で求められている酒質について情報が不足

⇒国内外で情報収集を行う（機器分析と官能評価）

〇海外市場向けコンテストの上位酒について品質が明らかでない

⇒入手可能な品についてサンプリングを行い、機器分析や官能評価に供する

〇海外市場に向けた清酒開発について、微生物開発のニーズがあるか不明

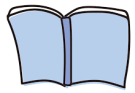
⇒聴き取りによりニーズを掘り起こし、情報収集や開発準備を進める

〇海外輸出された清酒の温度履歴や酒質の変化は不明

⇒日本酒輸出増プラットフォーム実証推進協議会との連携

計画

	R6	R7	R8	成果／目指すもの 技術移転（予定）先企業
海外市場向け清酒に関する調査	輸出用清酒や海外市場向けのコンテスト上位酒をサンプリングし、分析・官能評価 実際に輸出される清酒の温度履歴などを追跡調査	温度履歴を再現した虐待試験を実施し、酒質への影響を評価 分析やニーズ調査により、微生物開発の必要性が認められた場合には、開発手法の調査・開発準備	R8年度以降の課題へ	輸出用清酒に関する情報提供 移転先：酒造組合に加盟する企業 例：オフフレーバーを発生しづらい麹菌 移転先：秋田酒造、鈴木酒造店など



効果

1. 海外市場向け清酒に関する情報提供：秋田県内外の輸出向け清酒に関して、分析や官能評価から得られた情報を製造場にフィードバックする
2. 清酒の海外輸出に関するニーズの掘り起こし（微生物開発含む）

KPI: 報告会1件、学術論文1報